

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞

定量病理イメージング解析システムを用いた腸管及び皮膚 GVHD における腫瘍微小環境多様性の検討

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部附属板橋病院 血液・腫瘍内科（研究責任者）高橋宏通

＜研究期間＞

承認日 ～ 西暦 2027年 3月 31日

＜対象となる方＞

本研究の対象患者の期間:西暦 2001年 4月 1日 ～ 西暦 2024年 3月 31日に当院で同種造血幹細胞移植を受けられた方。

＜研究の目的＞

血液疾患における治療は日々進化し、今までのいわゆる抗がん剤だけでなく、腫瘍免疫をターゲットとした治療法が確立されてきました。現在、その中心には同種造血幹細胞移植があり、それにより病気を克服できる方も増えてきております。しかし、同種造血幹細胞移植には移植片対宿主病 (GVHD) という恐ろしい合併症があり、ドナー側の免疫細胞により命に関わる臓器のダメージが出てしまうことがあります。

この GVHD の病態を解明するためには、病理学的検体における詳細な免疫細胞の振る舞いを評価する必要があります。本研究において我々は、腸管および皮膚 GVHD に対する新たな分類を Mantra2 というイメージング定量化機能を兼ね備えた次世代の実験機器で解析することでその評価方法を確立し、また、過去の症例を再検討することで当院にて GVHD と診断された患者さんにおける治りやすさ、治りにくさの要因を明らかにし、今後のより良い治療戦略へと応用することが目的です。

＜研究の方法＞

該当する症例の診療録において、GVHD の疾患特性（血液・尿検査結果、画像検査、診療録および病理保存検体の形態学的・細胞遺伝学的・免疫学的プロファイル）と臨床像の関連性、および予後との相関関係を調査します。個人情報は厳密に管理され、個人が同定され得るデータは施設から出ることはありません。

＜研究に用いる試料・情報の項目＞

本研究は日本大学医学部附属板橋病院血液・腫瘍内科において同種造血幹細胞移植を受けた患者さんの臨床データ（検査データ、診療記録、保存病理検体）を用いて行う研究です。

検査データ、診療記録をまとめ、データベース化いたします。また、患者さんから得られた保存病理検体を用いて新規に多重免疫染色を行います。

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

血液・腫瘍内科 氏名:高橋 宏通

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2403 (PHS)8033

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方